

参加費
無料



ぼうさいSTEAM キャンプ! 未来の防災ヒーローは君だ!



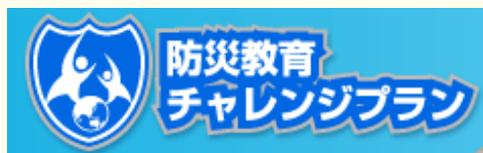
5.24 (土) 12:00 ~ 5.25 (日) 12:30

茨城県常総市「水海道あすなろの里」

茨城県常総市大塚戸町310

実施報告書

公益社団法人日本青年会議所
関東地区協議会
防災意識向上委員会



概要

【プロジェクトの概要】

■背景

自然災害の頻発や高齢化・外国人住民の増加に伴い、

災害時における公助（行政支援や避難所整備）だけは限界があります。

自助を前提とした行動と共助による取り組みが求められています。

■目的

一般市民が災害時における行政の支援内容（公助）を理解し、公助を補う自助力、共助力を高めること。

■内容

防災キャンプの実施「なぜ？を発見できるヒトづくり、知識伝達型から課題創造型へ」

対象：親子（日本人および外国人家族を含む）

特徴①STEAM教育を活用

- ・科学（Science）や技術（Technology）を通じた防災の理解。
例：防災ドローン操縦体験
- ・工学（Engineering）や創造性（Art）を通じた防災の理解
例：避難所生活シミュレーション
- ・数学（Math）を通じた防災の理解／例：津波の速体験、動画で雨トレ

特徴②異文化交流を促進

多様な価値観を持った仲間たちとグループワークを通じて交流する

特徴③家族単位での防災計画立案

地域全体の防災力を高めるためには、家庭内の防災計画を立案することが必要。

どのタイミングで、どこへ、どのように避難するのか？そして、近所の方（高齢者等）への声かけ等を学ぶ。

栃木県、茨城県、群馬県、
埼玉県、千葉県、東京都、
山梨県、神奈川県

から参加者を募集！

なぜ？を発見できる
ヒトづくり

みんなで目指そう！地域の防災ヒーローへ！

なまえ：



地震や台風、大雨など、いつどこで起きかわからない自然災害。でも、私たちが「準備」をしっかりすれば、災害から身を守り、大切な家族や友だちを助けることができます。今回の「防災キャンプ」は、皆さんに楽しみながら、防災について学べるプログラムとなっています！そして、みんなで力を合わせて災害に立ち向かう方法を学びましょう。さあ、一緒に地域の防災ヒーローへの第一歩を踏み出しませんか？未来のヒーローは君たちです！それぞれのワークプログラムをクリアして、「防災ヒーロー認定証」をゲットしよう！！！！

1日目				2日目	
プログラム1 「津波の速さを体験！ みんなで防災を考えよう！」	プログラム2 「防災ドローンで 地域を守ろう！」	プログラム3 「力を合わせよう！避難所生活 シミュレーション体験！」	プログラム4 「夜間ぼうさいワーク」	プログラム5 動画で雨トレにチャレンジ！	
学んだことを書いてみよう！	学んだことを書いてみよう！	学んだことを書いてみよう！	学んだことを書いてみよう！	学んだことを書いてみよう！	
防災ヒーローとして、家族や他の 友達を助けた内容があれば書いて みよう！	防災ヒーローとして、家族や他の 友達を助けた内容があれば書いて みよう！	防災ヒーローとして、家族や他の 友達を助けた内容があれば書いて みよう！	防災ヒーローとして、家族や他の 友達を助けた内容があれば書いて みよう！	防災ヒーローとして、家族や他の 友達を助けた内容があれば書いて みよう！	
スタンプ欄	スタンプ欄	スタンプ欄	スタンプ欄	スタンプ欄	
防災ヒーローとして、自分たちの家に戻ってから、どのようなことをがんばりますか？					

概要

【自ら考える力、共助の心を育むワークシート】

みんなで目指そう！地域の防災ヒーローへ！

なまえ：



地震や台風、大雨など、いつどこで起きかわからない自然災害。でも、私たちが「準備」をしっかりすれば、災害から身を守り、大切な家族や友だちを助けることができます。今回の「防災キャンプ」は、皆さんに楽しみながら、防災について学べるプログラムとなっています！そして、**みんなで力を合わせて災害に立ち向かう方法**を学びましょう。さあ、一緒に地域の防災ヒーローへの第一歩を踏み出ませんか？未来のヒーローは君たちです！それぞれのワークプログラムをクリアして、「**防災ヒーロー認定証**」をゲットしよう！！！！

1日目

2日目

プログラム1
「津波の速さを体感！
みんなで防災を考えよう！」

プログラム2
「防災ドローンで
地域を守ろう！」

プログラム3
「力を合わせよう！避難所生活
シミュレーション体験！」

プログラム4
「夜間ぼうさいワーク」

プログラム5
動画で雨トレにチャレンジ！

学んだことを書いてみよう！

学んだことを書いてみよう！

学んだことを書いてみよう！

学んだことを書いてみよう！

学んだことを書いてみよう！

防災ヒーローとして、家族や他の
友達を助けた内容があれば書いて
みよう！

防災ヒーローとして、家族や他の
友達を助けた内容があれば書いて
みよう！

防災ヒーローとして、家族や他の
友達を助けた内容があれば書いて
みよう！

防災ヒーローとして、家族や他の
友達を助けた内容があれば書いて
みよう！

防災ヒーローとして、家族や他の友達を
助けた内容があれば書いてみよう！

スタンプ欄

スタンプ欄

スタンプ欄

スタンプ欄

スタンプ欄

防災ヒーローとして、自分たちの家に戻ってから、どのようなことをがんばりますか？

各プログラムで学んだことに加えて、
友だちや家族を助けたことを記載し、共助の心を育む



参加者

【対外】

- 一般参加者：子ども49名、大人48名 計97名※日帰りを含む
41家族※外国人：0家族
内訳：栃木県3家族、茨城県16家族、群馬県2家族、埼玉県3家族
東京都6家族、神奈川県3家族、千葉県6家族、山梨県2家族
- 講師：2名
- ボランティア：18名
 - ・よんなな防災会2名（内 防災士1名）
 - ・伊澤株式会社3名
 - ・株式会社GATARI 2名
 - ・一般ボランティア 11名（内：外国人5名）

【対内】

- 青年会議所メンバー：106名
- 公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会役員33名+8名
- 公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会防災意識向上委員会39名
- 公益社団法人日本青年会議所関東地区各ブロック協議会 防災担当者2名
- 公益社団法人日本青年会議所国家グループレジリエンス強化委員会9名
- 一般社団法人常総青年会議所メンバー13名
- 公益社団東京青年会議所共生政策委員会2名



地域ごとに記念撮影

概要

災害時における行政の支援内容（公助）を学び、 公助を補う自助力、共助力を高める防災キャンプを実施します

対象

小学1～6年生の親子※45家族90人を想定

内容

Day1

●開催主旨

キャンプを通じて、ほぼ必ずくる災害に対して、「深刻」ではなく、「真剣に」「楽しく」防災知識を得てほしい。

●避難生活レクチャー

常総市の防災危機管理課のサポートのもと、実際の避難所で利用するエアベッドの設営をグループごとに行い、実際の寝心地や居心地を体感します。

●ワークショップ（STEAM教育×防災）

- ・防災ドローン操縦体験、
- ・避難所生活シミュレーション、
- ・運動しながら津波速度を体験 等

●炊き出し体験

避難生活を想定した
炊き出しを体験してみよう！

●ぼうさい×DXワーク体験

→ぼうさい×DXをテーマとして、
防災体験プログラムで、楽しみながら防災を学ぶ。

Day2

●防災計画を家族で考えよう！

- 防災意識の向上における最小単位は「家庭」
- もし、私たちが自分たちの町で被災したら？
- この機会に家庭防災を考えてみよう！

●子どもたちによる感想発表

- 参加してみてどうだった？
- 家に帰ったら、何をしてみる？

●地域を守る防災ヒーロー認定証の授与

- 参加してくれた子どもたちに認定証を授与

●まとめ

- 協賛企業のご紹介
- 防災関連情報の配布等※協賛企業のご紹介



後援

栃木県、茨城県、
群馬県、埼玉県、
東京都、千葉県、
山梨県、神奈川県、
茨城県常総市

協力

- ・内閣府防災教育チャレンジプラン
- ・香川大学創造工学部 竹之内健介 氏
- ・文部科学省トビタテ！留学JAPAN！
- ・公益財団法人日本数学検定協会
- ・株式会社パナソニック
- ・特定非営利活動法人親子はねやすめ
- ・株式会社エムディー
- ・STEAM防災教育実行委員会

- ・株式会社デンソー
- ・Rain Tech株式会社
- ・伊澤株式会社
- ・株式会社GATARI
- ・よんなな防災会

■ 目的の達成度について

目的：一般市民が災害時における行政の支援内容（公助）を理解し、公助を補う自助力、共助力を高めること。

① 災害時における行政の支援内容（公助）を理解

■ 実施内容（公助理解に資するプログラム）

- ・常総市防災危機管理課による「避難所生活レクチャー」
- ・10年前の常総市水災害に関する被災者トーク（通訳体験／異文化コミュニケーションの困難など）

■ 定量的成果（アンケート結果）

保護者48名中、100%が防災意識の向上を実感（「とても高まった」33名、「多少高まった」15名）

■ 定性的成果（自由記述より）

- 「行政に依存せず自宅で準備する重要性を理解した」
- 「災害を自分事として考えるきっかけになった」
- 「避難所生活の現実や文化の違いに触れ、備えの大切さを感じた」

■ 評価

実際の行政担当者による講話と、避難所の設備体験・被災者の実話という実践的かつ多面的なプログラム構成により、参加者が行政支援（公助）の内容と限界を具体的に理解する機会となった。よって、「**公助の理解**」という目的は、**高い達成度を示したと評価できる**。また今後については、**公助を理解する**という観点では、**行政の防災課に加えて、社会福祉協議会や消防署、消防団との連携も期待できる**。



② 公助を補う自助力、共助力を高める

■ 実施内容（自助・共助の育成を目的としたプログラム）

- ・家族での防災計画立案ワーク（動画で雨トレ）
- ・津波の速さ体験（ドローンによる津波の速さ再現、視覚障がい模擬体験など）
- ・避難所生活シミュレーション（役割分担・困りごとカード）
- ・防災ドローン操縦体験 / ・炊き出し体験（配膳を含む） / ・夜間防災クエスト（協力型アクティビティ）

■ 定量的成果（アンケート結果）

- ・家庭で今後防災に取り組みたい：48名中48名（100%）
- ・共助の大切さを感じた：「とても感じた」45名、「少し感じた」3名（100%）
- ・異文化協力への抵抗感が減った：「なくなった／少しなくなった」44名（93%）
- ・子どもたち全員が「助け合いの大切さを感じた」と回答（49名）

■ 定性的成果（自由記述より）

- 「家族で避難ルールを話し合うきっかけになった」「日常で共助を考えるようになった」
- 「避難所での役割を意識するようになった」「文化や言語の違いがあっても声をかけ合う勇気を持てた」
- 「目隠しでの避難体験が衝撃的だった」「ドローンの活用可能性を感じた」

■ 評価

家庭内での防災行動計画を考えることで自助力を高め、参加型・体験型プログラムを通じて、共助の意識を自然に醸成することができた。子どもも大人も「他者の存在を意識して行動する力」を育む内容となっており、定量的にも100%近い効果が確認された。

したがって、「**自助・共助力を高める**」という目的は、**非常に高い達成度をもって実現された**と評価できる。

自助と公助のどちらかが大切なのではなく、自助のスキルを軸に、共助の心を育むことが大切であり、事業構築においても、各プログラムが自助なのか？共助なのか？を明確にしながら実施することが重要である。

改善点

■ 外国人家族の動員

1泊2日の宿泊型事業、かつ、1都7県という広域から茨城県常総市に動員するため、一般参加者の動員が懸念されていたが、SNSを通じた広報やプレスリリースの配信。そして何よりも、協力パートナーによる紹介やクチコミによって、計画していた参加者数を達成した。

しかし、当初計画していた**外国人家族動員が0家族という結果に終わった。**

外国人のボランティアスタッフ参加や、実際に避難所生活で通訳業務を経験していた日系の方のトークなどで、ある一定の交流や多様性を意識したプログラムを実施できたが、運動で目指す未来に記載した「**多様性を尊重しながら、誰もが安心して生活を送れる関東地区の実現。**」については、この多様性という観点から、未達成であったと言える。

■ 外国人家族へ実施したアプローチ

本事業の動員に際して、**文部科学省トビタテ留学JAPANを通じた留学生親子への広報と、常総市へのアクセスが良い茨城県、千葉県内のインターナショナルスクール、守谷国際交流協会への広報**を実施した。メンバーが直接ご説明に出向き、事業説明を実施したが、動員には繋がらなかった。

■ 外国人家族の声

調査研究において、外国人家族へ正確にヒアリングできていなかったこともあり、外国人家族が参加したいと思える内容や取り組み訴求が適切に実施できていなかった。また、**事業後の検証期間で外国人家族にヒアリングしたところ、「行きにくい」というネガティブな声をもらうことが多く見受けられた。**

<実際の声>

- ・茨城県常総市在住／ブラジル人
→日本人と一緒に部屋に泊まることは正直考えられない。日本人が嫌いということではなく、変な目で見られるのが怖い。また、刺青が入っているので、一緒に入浴するのも気が引ける。
- ・東京都荒川区在住／中国人
→自分の地域外かつ宿泊型だと、かなりハードルが高い。
自分の地域ならハードルは低く感じるが、まずは数時間のイベントに参加してみたい。

【今後は・・・】

●「1日の体験型防災イベント」など気軽に参加しやすい導入企画の併設

→外国人家族の参加ハードルを下げるために、宿泊型ではなく1日のプログラムとして実施したり、初回はオンラインで防災ワークを実施し、気運が高まったところで、宿泊型事業に案内するなど、複数回のプログラム形式に分けていくことも必要。

●外国人支援団体、国際交流協会、インターナショナルスクール等との事前連携

→連携することで、言語や文化の壁を越えて正確に情報を届けられることに加えて、外国人家族が信頼する団体が主催することで参加への安心感を生み、参加意欲も向上する。また、当日の通訳やサポート体制の構築にもつながり、多文化共生の実践としても効果的である。

参加者の行動変容

■参加者のヒアリング調査

本事業終了後、参加者に対するアフターフォローの一環として、ヒアリング調査を実施した。

その中で明らかになったのは、参加者の約70%が、キャンプでの体験をきっかけに、何らかの防災行動に移しているというポジティブな傾向である。

具体的には、「家族で避難場所や避難経路を確認した」「防災バッグの中身を家族で点検し直した」「家具の固定状況を見直した」といった行動が目立った。

中でも注目すべきは、子ども自身が主体となって行動を促したという報告が複数あった点である。

「家に帰ってすぐに“うちはどこに逃げるの？”と質問してきた」

「防災ヒーローごっこを通じて家族で防災役割を決めた」

「学校の自由研究テーマに防災を選んだ」など、

イベントが単なる知識提供にとどまらず、家庭内の対話を生む媒介となったことがうかがえる。

一方で、「忙しくてまだ行動に移せていないが意識は高まった」

「まずはできることから始めようと思っている」といった声もあり、防災行動を継続的に後押しする仕組み

の必要性も浮き彫りになった。今後は、イベントへの要望として寄せられた「津波避難」「ペットの防災」

「障がい者・高齢者との連携」といった具体的ニーズをもとに、テーマ別ワークショップや

動画コンテンツなどを通じて、家庭防災の習慣化を支援する取り組みが求められる。



实施内容

タイムスケジュール

<DAY1>

12:00	12:25	(0:25)	開会式	学習棟		
12:00	12:05	(0:05)	・開会セレモニー	・司会挨拶／オープニングムービー／会長挨拶		
12:05	12:15	(0:10)	・趣旨説明 ・本日の流れ	・1泊2日の防災キャンプの全体像 ・何を目的としているのか？何を帰って帰っていただきたいのか？		
12:15	12:25	(0:10)	アイスブレイク (自己紹介)	各グループ内での自己紹介		
12:25	13:15	(0:50)	①避難所生活 レクチャー	学習棟		
12:25	12:30	(0:05)	趣旨説明	・体験型ワークプログラムの全体像		
12:30	13:00	(0:30)	設営・寝心地体感	・各グループにエアベッドを3つ程度配布 ・エアベッドを設営し、寝心地を確かめてみる		
13:00	13:15	(0:15)	記念撮影	広場で撮影※雨天時は体育館		
13:15	16:40	(3:25)	「STEAM×防災」 体感型ワークプログラム	Aグループ	Bグループ	Cグループ
13:15	13:20	(0:05)	ワークプログラムの全体像 説明	・体験型ワークプログラムの全体像		
13:20	13:30	(0:10)	移動	多目的広場	多目的広場→学習棟	多目的広場→体育館
13:30	14:20	(0:50)	1回目	ワーク① 津波の速さを体感！	ワーク③避難所生活 シミュレーション体験	ワーク②防災ドローンで 地域を守ろう！
14:20	14:30	(0:10)	休憩&移動	多目的広場→体育館	学習棟→多目的広場	体育館→学習棟
14:30	15:20	(0:50)	2回目	ワーク②防災ドローンで 地域を守ろう！	ワーク① 津波の速さを体感！	ワーク③避難所生活 シミュレーション体験
15:20	15:30	(0:10)	休憩&移動	体育館→学習棟	多目的広場→体育館	学習棟→多目的広場
15:30	16:20	(0:50)	3回目	ワーク③避難所生活 シミュレーション体験	ワーク②防災ドローンで 地域を守ろう！	ワーク① 津波の速さを体感！
16:20	16:25	(0:05)	移動	学習棟	体育館→学習棟	多目的広場→学習棟
16:25	16:35	(0:10)	まとめ	本日のまとめ		
16:35	16:40	(0:05)	移動	学習棟→憩いの森		
16:40	18:10	(1:30)	炊き出し体験	憩いの森		
16:40	16:45	(0:05)	司会挨拶	・災害体験者トークでの司会進行・子供の配膳の順番指示		
16:45	16:55	(0:10)	趣旨説明	・参加者に対して炊き出し～災害体験者トークの全体の流れと趣旨を説明		
16:55	17:05	(0:10)	配膳手伝い/A	・A→B、B→C、C→Aに子供たちがカレーも盛付を行う		
17:05	17:15	(0:10)	配膳手伝い/B	※1クール10分～15分※子供たちの配膳補助		
17:15	17:25	(0:10)	配膳手伝い/C	※子供の配膳の順番指示（司会が切り替えの合図等の指示を行う）		
17:25	18:05	(0:40)	災害体験者トーク	・災害体験者トーク※カレーを食べながら聞く		
18:05	18:10	(0:05)	司会挨拶	・締め挨拶		
18:10	20:30	(2:20)		Aグループ	Bグループ	Cグループ
18:10	18:20	(0:10)	全体説明	全体の流れを説明		
18:20	19:00	(0:40)	1回目	夜間防災ワーク（GATARI）	防災カルタ・トランプ	入浴
19:00	19:05	(0:05)	移動	↓	↓	↓
19:05	19:45	(0:40)	2回目	入浴	夜間防災ワーク（GATARI）	防災カルタ・トランプ
19:45	19:50	(0:05)	移動	↓	↓	↓
19:50	20:30	(0:40)	3回目	防災カルタ・トランプ	入浴	夜間防災ワーク（GATARI）
20:30	21:00	(0:30)	就寝準備	宿泊棟		
20:30	21:00	(0:30)	就寝準備	※各部屋ごとに今日の振り返りを簡単に行ってもらおう ※明日の起床集合時間などもアナウンスする		
21:00			《終了》			

タイムスケジュール

<DAY 2>

7:00	9:00	(2:00)	ラジオ体操・朝食	憩い森
7:00	7:05	(0:05)	集合※6時30分	
7:05	7:15	(0:10)	集合、ラジオ体操	
7:15	8:15	(1:00)	朝食	※キャンプ飯 ※6時開始
8:15	9:00	(0:45)	準備	※布団の整理整頓や帰宅の身支度は事前に済ませておく
9:00	9:10	(0:10)	オープニング	学習棟
9:00	9:10	(0:10)	本日の流れ説明	・動画で雨トレと防災ヒーロー認定式について
9:10	11:00	(1:50)	動画で雨トレに チャレンジ 家族で考える 防災スイッチ	学習棟
9:10	9:15	(0:05)	講師紹介及び挨拶	
9:15	9:30	(0:15)	講義	
9:30	10:40	(1:10)	ワークプログラム	・講師：香川大学竹之内健介氏
10:40	10:50	(0:10)	振り返り・アンケート	
10:50	11:00	(0:10)	休憩	
11:00	11:55	(0:55)	防災ヒーロー認定式	学習棟
11:00	11:05	(0:05)	認定式の流れ説明	
11:05	11:55	(0:50)	認定書の授与&感想発表	
11:55	12:28	(0:33)	閉会式	学習棟
11:55	11:56	(0:01)	説明	
11:56	11:59	(0:03)	ご当地理事長御礼 挨拶	
11:59	12:02	(0:03)	委員長御礼挨拶	・2日間のまとめと御礼、子どもたちへのメッセージ
12:02	12:04	(0:02)	今後のご案内	・7月事業案内
12:04	12:09	(0:05)	ヒーローショー	
12:09	12:12	(0:03)	エンドロール	
12:12	12:14	(0:02)	閉会宣言	
12:14	12:24	(0:10)	アンケート回答	
12:24	12:28	(0:04)	記念撮影	

各プログラム内容

▶ 避難所生活レクチャー

常総市の防災危機管理課のサポートのもと、実際の避難所で利用するエアベッドの設営をグループごとに行い、実際の寝心地や居心地を体感。また、間仕切りテントを設営し、避難所生活におけるプライベート空間を事前に確認しておくことを理解する。



- ✓ 避難所生活をイメージ
- ✓ プライベート空間の有無
- ✓ 避難所生活に必要なこと（自宅から何をもってくる？）
- ✓ 自宅での防災グッズの準備も大切
- ✓ 公助には限界がある（≒共助の心で助け合うこと）

各プログラム内容

▶ 避難所生活シミュレーション（マッチングゲーム）

災害が起こると、家が壊れたり、浸水したりして、避難所で生活することになるかもしれない。避難所というのは、災害にあって、家が壊れたりした人が、しばらくの間住むところ。避難所でどんなお手伝いができるか、ゲームを通して勉強する。

ひなん所と支え合い

マッチングゲームで困っている人を助けよう！！

ひなん所ってどんなところ？
どんな問題が起きているの？
どうやったら良くなるの？



ひなん所

上 能登町立鷗川小学校
下 能登町立小木小学校
撮影：関西国際大学 河田

困っています(4)

ひなん所でごはんを配る人がたりない

避難所生活のお困りごとに対して、
どのようなアクションが必要？

手助け人物① 市役所の人	手助け人物⑥ じえいたいの人
手助け人物② お医者さん	手助け人物⑦ やくざいさん (くすり屋さん)
手助け人物③ かんごしさん	手助け人物⑧ 学校の先生
手助け人物④ ボランティアの お兄さん	手助け人物⑨ 電気屋さん
手助け人物⑤ ボランティアの お姉さん	手助け人物⑩ けいさつかん
自分の名前を書こう！	じゆうに書いてo.k.

- ✓ 避難所生活における不安、不満を理解する
- ✓ 周囲と協力することの大切を学ぶ
- ✓ 自分にできることは何か？を考える
- ✓ 子ども、大人関係なく、自分自身も必ずできることはある

各プログラム内容

▶ 避難所生活シミュレーション



各プログラム内容

▶津波の速さ体験

「津波の速さを体感」

■タイムスケジュール

導入・移動 5分

●目的説明

- ・今回は津波の速さを、身体を使って、実感する
- ・動画で雨トレを使って、避難シミュレーションし、災害を想定した、行動をイメージする

場所：体育館（半面）



津波の速さを体感 15分

●1回目「準備運動」

簡単な準備運動の後、地点AB間のまずは走ってみる
※ケガに注意すること！

●2回目「ティラノサウルスから逃げよう！」

地点AB間を走り、ティラノサウルスから逃げてみる

●3回目「友達と手を繋いで一緒に避難しよう！」

近くの友達と手を繋いで、地点AB間を走ってみる
※ティラノサウルスで、ゆっくり追いかける

●4回目「目隠しをした友達と一緒に避難しよう！」

高学年の子が目隠しをして、低学年の子が誘導する
※ここは追いかけることはしない

●5回目「津波（ドローン）から逃げよう！」

地点AB間を走り、津波（ドローン）から逃げてみる
※ドローン操縦は専門家が実施

振り返り・発表 5分

●設定

3～4人 1グループで円になる

●グループワークのお題 大変だったことは？学んだことは？

- ・実際にやってみて、どうだった？
- ・友達や家族（おじいちゃんやおばあちゃん）と一緒にいたらどうすべきか？

●グループ発表

グループで話した内容を全体に発表

- ✓ 友だちと一緒に避難するときの難しさを体感する
- ✓ 目が見えない人や身体が不自由な人と一緒に避難するときの難しさを体感する
- ✓ 津波の速さ（ドローンで再現）を体感し、津波からは逃げる難しさを理解する
- ✓ 早急に避難する大切さを理解する

各プログラム内容

▶津波の速さ体験



目が見えない友達を
助けよう！



津波の速度を再現

- ①まずは自分が避難すること
- ②小さい友だちと手を繋いで一緒に避難することを想定
- ③目が見えない人との避難を想定
- ④海岸に迫った津波からの避難を想定（逃げれない）

各プログラム内容

▶防災ドローン操縦体験

「防災ドローンで地域を守ろう！」

導入 5分

●目的説明

- ・ドローン技術を学び、防災活動に活かす方法を考える
- ・最先端の技術に触れて、防災への意識を高める

ドローン操縦体験 35分

【こども向け】ドローン操縦体験@体育館

小学生向けの小型ドローンを活用し、被災地域を想定した地点（お菓子を設置）をドローンをあてて、落とす。お菓子を落としたら、もらえる仕組みになっています。

- ※ 3機あるため同時に3名まで可
- ※ 1人3分程度で実施
- ※ 待ちの子どもはドローン展示鑑賞
- ※ 時間があれば二回目をやる



振り返り 5分+発表5分

●設定

3~4人1グループで円になる

●グループワークのお題

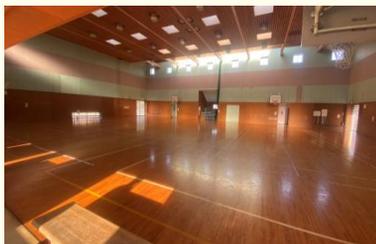
災害が発生！みんなだったら、ドローンをどのように活用する？

(例：「避難所の確認」「孤立地域の発見」「救援物資の運搬」など)

●グループ発表

グループで話した内容を全体に発表

場所：体育館（半面）



スタッフへの依頼事項！

- 基本的には、ドローン講師の方が全体をファシリテーションします
- スタッフは、ドローン講師の指示に従って、こどもの整列 & 誘導をお願いします
- 小型ドローンは、メンバーでも簡単に操縦できるので、こどもたちの操縦サポートをお願いいたします
- 飛行場所内のお菓子設置、ドローンのバッテリー交換など、細かい作業が発生しますので、講師の指示に従ってサポートをお願い致します。

- ✓ **ドローンの可能性を理解する**
- ✓ **ドローンを通じて、防災を身近に感じる**
- ✓ **多様な世代の活躍の推進**
（ドローンは子ども、女性でも操縦でき、災害支援の活躍の場が広がる）

各プログラム内容

▶ 防災ドローン操縦体験



各プログラム内容

▶炊き出し体験&被災者トーク



- ✓ 子どもたちが配膳等のお手伝いを通じて、炊き出しを体験する
- ✓ ご飯の大切を理解する
- ✓ 防災食（アルファ米など）を知る



- ✓ 10年の水災害を経験した方のトーク
- ✓ 避難所のリアルを知る
- ✓ 避難所での通訳経験者から言語や文化の違いを学ぶ

各プログラム内容

▶夜間防災ワーク（防災クエスト）

GATARI様が開発するプラットフォーム「Auris※空間を細部まで認知できる技術」を活用し、大人も子どももクエストを楽しみながら、都市機能や生活にも支障をきたすとされる液状化現象について学ぶことができる。

体験者は、登場人物の声に導かれ、歩く、しゃがむ、振り向く等、実際に体を動かしながらクエストを進めていく。依頼されるクエストは、液状化の影響や、調査・対策、実際の関連制度にまつわる内容になっており、液状化現象に馴染みのない方でも、ゲームを進めていくうちに液状化現象について知っていただけるようになっている。



▶防災トランプ° 防災かるた

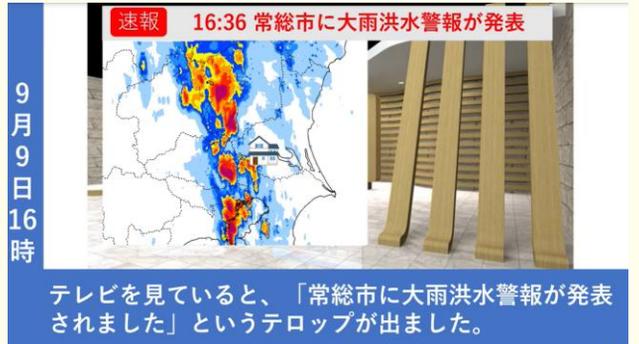
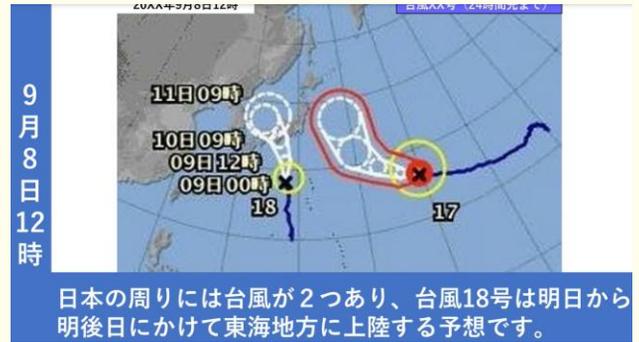


各プログラム内容

▶動画で雨トレ

香川大学の竹之内先生を講師にお迎えし、「動画で雨トレ」を活用した、災害避難シミュレーションと防災スイッチ（避難すべきタイミング）に関する講義とグループワークを実施。

動画で雨トレでは、過去の災害や未来の災害など、いろんな災害シミュレーションを体験できます。あなたの行動やタイミングは大丈夫か？
いつ起こるかわからない災害を疑似体験。



10年前の常総市における水災害をテーマとして、
当事の時系列に合わせて実際の雨量変化を再現し、
各時間帯において、自分がどのような行動をとるか？選択。

選択肢：

いつも通り過ごす、様子を見る、水やぼうさいグッズを用意、
ひなん先や道を確認する、家族で話し合う、2階で過ごす
ひなんの用意、安全な場所へひなん

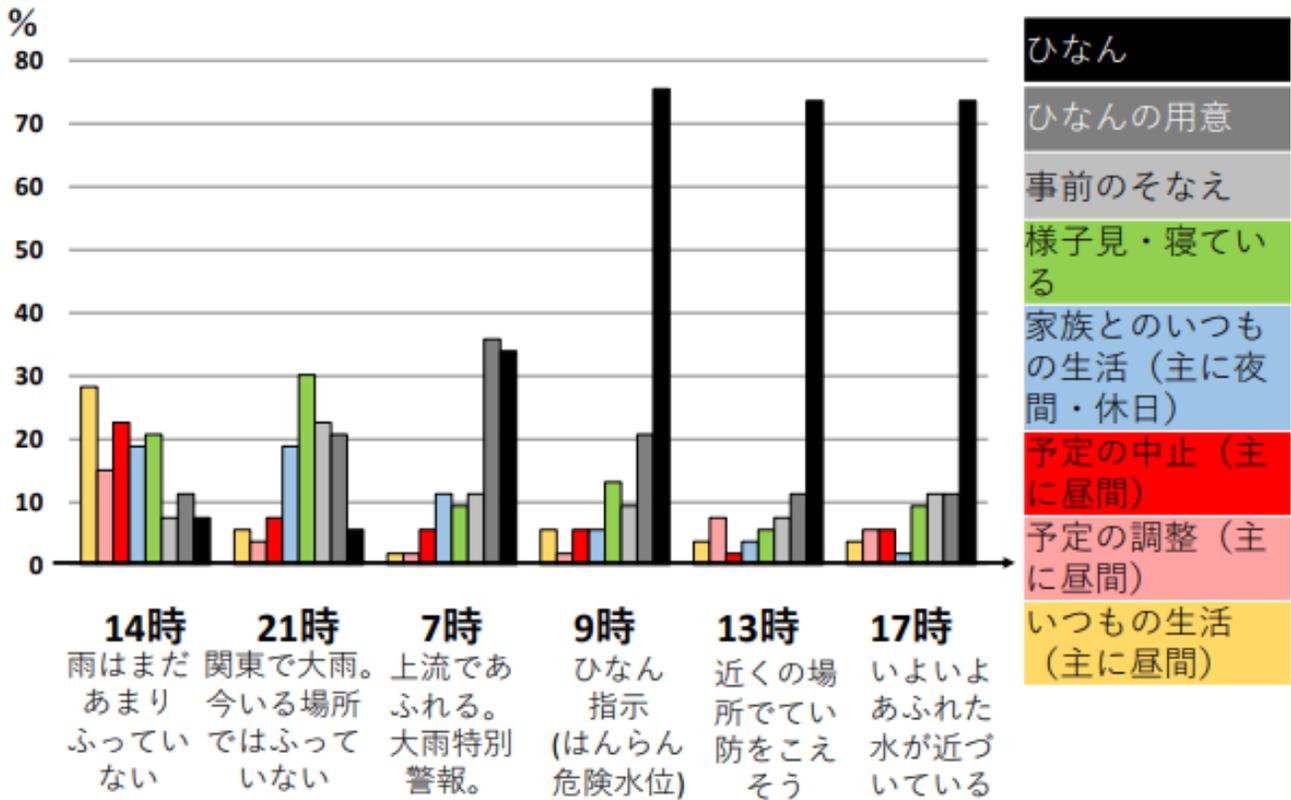
各プログラム内容

▶動画で雨トレ

各時間帯別の参加者の行動選択結果

結果1 みんなの行動の時間変化

問題1 みんないつ何をしていますか？



結果2 行動した人の割合 (わりあい)

問題2 されていることと、されていないことは何？

①いつもの生活 (主に昼間)	②予定の調整 (主に昼間)	③予定の中止 (主に昼間)	④家族とのいつもの生活 (主に夜間・休日)	⑤様子見・寝ている	⑥事前のそなえ	⑦ひなんの用意	⑧ひなん
34%	57%	79%	64%	74%	79%	91%	98%

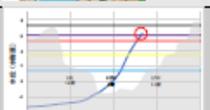
まとめ

問題3 今後、家族でできること、まわりと協力できることがないか、考えてください。

各プログラム内容

▶動画で雨トレ

グループワークシート（行動選択のシェア）

	そのときの出来事や様子	まわりの様子	(一人一人話す) いつ心配になりましたか？	(一人一人話す) いつひなんしましたか？	(みんなの話を聞いた後) あなたの行動について どう思いましたか？
14時	近くでは雨はあまりふっていませんが、西の方に黒い雲が見えます。水位は、特にあふくはなさそうです。				よかった
18時	近くでも強い雨がときどきふっています。おなかもグーグーなってきました。				
21時	ニュースで関東地方で、大雨がっついていると書いています。今いる場所ではふっていません。				
7時	雨の音で起きました。外は大雨です。テレビで10km上流で鬼怒川があこれたと書いています。家族に聞くところからは、はなれているようです。常総市に大雨特別（とくべつ）けいぼうが発表されました。				ややよかった
8時	近くの場所の水位もほんらん危険水位をこえているようです。ほんらん危険水位って何だっけ？				
9時	雨は弱まったり、強くなったりしています。すい。近くの川の水位も上がっているため、今いる場所の地区にひなんしじが出されたようです。				
10時	テレビでは、川があこれた上流の様子が流れています。ひざあたりまで水につかっています。				あまりよくなかった
11時	雨は強くないのですが、なかなか止みません。				
12時	上流で水につかった車の様子がTVで流れていました。どうもあこれた水が南の方に流れてきているようです。上流のべつ場所、ていぼうがこれ、水がまちに流れ始めたようです。				
13時	あいかわらず、雨がふったりやんだりしています。すい。近くの場所でも水位が、ていぼうをこえようとしているという放送が外から聞こえました。				よくなかった
14時	近所ではマンホールやみぞから水があこれているようです。気づくと周りも足首まで水につかっていた。市内でい電も発生したようです。				
15時	ようやく雨が小降りになりました。まわりはひざの上まで水につかっています。近くの小さな川から水があこれているようです。まち中が茶色です。				
16時	上流では、ものすごいきおいで川の水がまちに流れこんでいるようです。				わからない
17時	弱い雨が時々ふっています。情報（じょうほう）がない中、上流であこれた水がいよいよ近づいているという話を近所の人から聞きました。				

各プログラム内容

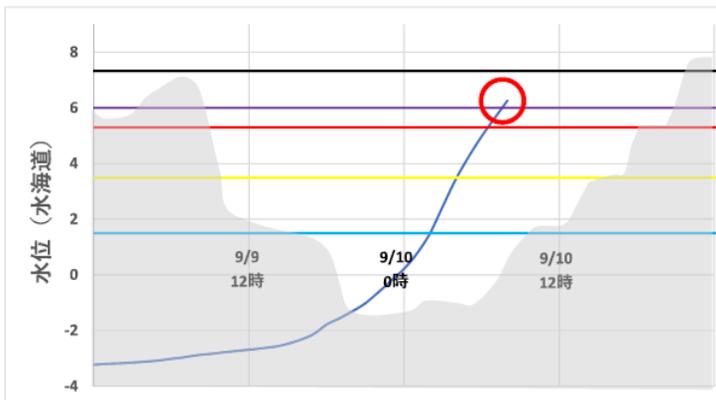
▶動画で雨トレ



香川大学創造工学部

川の水位(すい)

ひなんしじ
の目安



はんらんきけん水位

川がはんらんするおそれのある水位

ひなんはんたん水位

ひなん情報の目安となる水位

はんらん注意水位

川のはんらんに注意する水位



各プログラム内容

▶動画で雨トレ

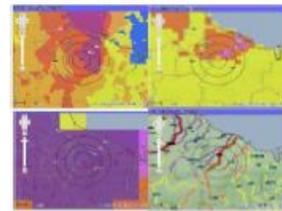
ぼうさいスイッチって何？



ちいき
地域のきけん



ぼうさい
スイッチ



ちいききしょうじょうほう
地域気象情報

自分たちの身を自分で守るために
日ごろから地域のきけんを知り、
スイッチをおして、^{ひつと}必要な行動をします!!



家族で「いつ何をするか」
わが家のスイッチを話し合ってみてください。

各プログラム内容

▶防災ヒーロー認定式



各プログラム内容

▶ヒーローショー

**「共助の心」「考える力」をコンセプトとした
ぼうさいヒーローショーで、
参加した子どもたちの学びを深める**



**会場みんな！
共助の力を
分けてくれ！**

▶全体集合写真



記念撮影

▶ドローン撮影



会場図

3 体育館（ワークプログラムで使用）



4 多目的広場（晴天時にワークプログラムで使用）



5 学習棟（ワークプログラムで使用）



6 憩いの森・BBQ場（炊き出し体験で使用）



保護者アンケートサマリー
回答者：48名

「防災キャンプアンケート」

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

1：全体を通して、この防災キャンプに満足しましたか？

満足 / 普通 / 不満



2：今回のキャンプを通じて、防災意識が高まりましたか？

とても高まった / 多少高まった / あまり変わらない / 全く変わらない



- ・感動しました。2日間ありがとうございました。
- ・避難準備品の用意の重要性を理解できました。自宅で行います
- ・防災グッズの見直し、避難場所や家族の取り決めを行います
- ・防災スイッチを考えることが大切だと感じた
- ・他人事になりがちだが、自分事として考える機会にすることができた
- ・実際に被災された方の話を聞いたことで、災害時をイメージできた
- ・日頃、家族で防災に関する話さえたことがなかったので、非常に有意義な2日間でした
- ・津波が思ったより早いことを知ったことです
- ・地元での災害から10年近くたっており、薄まった意識を改めて高めることができた。

「防災キャンプアンケート」

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

3：このキャンプを通じて、「共助」の大切さを感じることができましたか？

とても感じた / 少し感じた / あまり感じなかった /
全く感じなかった / どちらでもない



- とても感じた
- 少し感じた
- あまり感じなかった
- 全く感じなかった
- どちらでもない

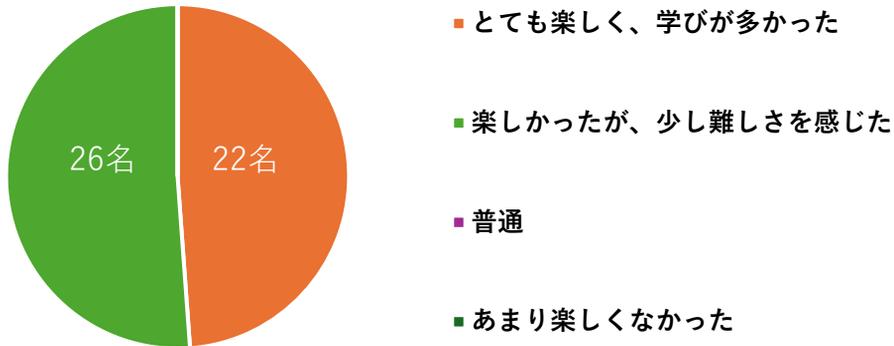
- ・ワークを通じて、共助の必要性をととても感じました
- ・多くの人が集まった状況を体験できたことで、孤立はできないと感じました。また、助け合う気持ちを子どもからもらいました。
- ・協力しあう大切さ、また、そのためには、日頃のコミュニケーションが大切さであると感じた。
- ・「避難所シミュレーション」のワークがとても分かりやすく、自分ができることを考えるととてもいい機会になりました
- ・自分一人では何もできないことを痛感しました
- ・自分たちで助け合う当事者意識を持つこと、そして考える力を身につけることの重要性を理解した
- ・互いに声を掛け合うことや情報共有の大切さを感じた

「防災キャンプアンケート」

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

4：他の世代や文化の人々と協力し、活動することについて、どのように感じましたか？

とても楽しく、学びが多かった / 楽しかったが、少し難しさも感じた
普通 / あまり楽しくなかった



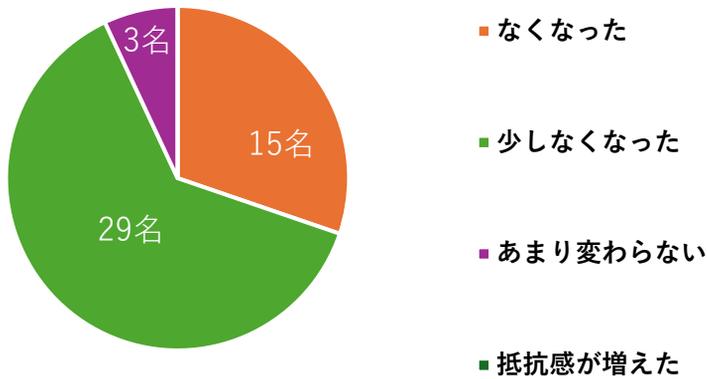
- ・年代によって、価値観が異なるため、避難所生活においては大変なことも多いと感じた
- ・多様な世代と常にコミュニケーションを取ることで、様々な情報を得られるのと、有事の際に適切な判断を下せると感じた
- ・子どもが輪に入ることができるか心配だったが、色々な方に声をかけていただき、楽しそうに取り組んでいた
- ・非常時は大人の遠慮や気遣いよりも、子どもの素直さの方が役に立つと思い、見習いました
- ・避難所での通訳業務をされた方の話を聞いて、言語の壁はとても難しいと感じた
- ・子どもはあまり考えていないと思っていたが、大人よりも周りに気にかけており、素直にすごいと感じた

「防災キャンプアンケート」

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

5：災害時、異なる世代や文化の人々と協力することに対して、
以前よりも抵抗感が少なくなりましたか？

なくなった / 少しなくなった / あまり変わらない / 抵抗感が増えた



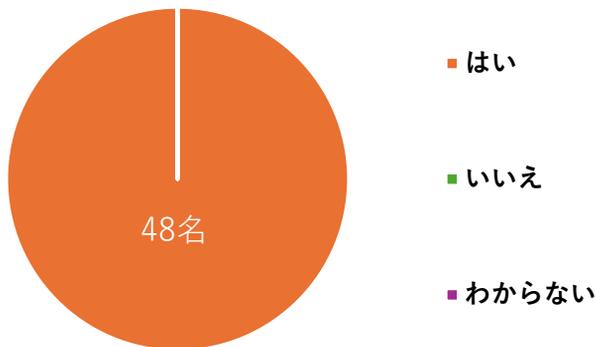
- ・子どもが最初は緊張していたが、すぐに周りとうちとける姿を見て、自分が抵抗感を抱いている場合ではないと感じた
- ・自ら声をかけていく必要があると感じた
- ・子どもは役に立ちたいと思っているし、できることがあると改めて思い、大人、子ども関係なく、みんなで助け合う、力を合わせていきたいと感じた
- ・被災者体験トークを聞いて、異なる文化の人々とのコミュニケーションが大変そうだと感じた
- ・外国人との協力には課題がたくさんあると感じた
- ・異なる文化の方ともっと交流してみたかった

「防災キャンプアンケート」

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

6：ご家庭で今後、防災について何か取り組みたいと思うことはありますか？

はい / いいえ / わからない



- ・まずはこの2日間のことを周囲の人たちに共有していきたい
- ・逃げキットを作成して、もしもの備えを行う
- ・有事の際を具体的にイメージして、話し合いをして、家族で意識を共有したい
また、事前の準備として防災グッズを揃えておく
- ・自宅のハザードマップを確認して、家族の防災スイッチを考える
- ・困ったときに、誰が何をできるのかを事前に話し合いしておく
- ・すぐ避難できる準備を必ず行う
- ・ルール決め（防災スイッチ）がとても大切だと感じたため、
家族で話し合いする
- ・防災バッグを改めて整理する
- ・水やトイレなどの防災用を準備する
- ・家族を守るための備えをしっかりと、また、地元で開かれる避難所開設体験や
救急救命講習を受講する

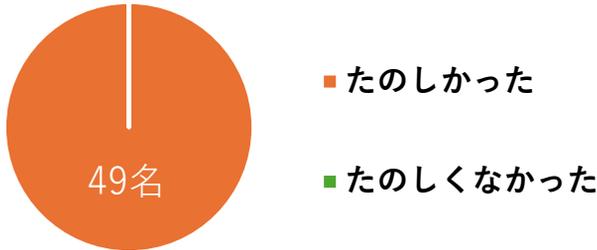
子どもアンケートサマリー
回答者：49名

「防災キャンプアンケート」 (回答者=49人)

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

1：防災キャンプはたのしかったですか？

- ・ たのしかった
- ・ たのしくなかった

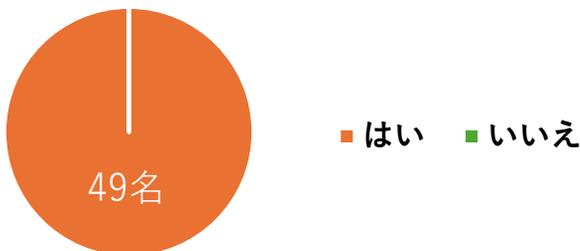


たのしかったことをかいてみましょう！

- ・ 津波体験で、走るながら津波の速さをしることができたこと
- ・ 防災トランプで、友だちと楽しく遊べたこと
- ・ 防災ドローンのまとあて、活用方法を知れたこと
- ・ 友だちとカレーを食べたこと
- ・ エアベッドの体験
- ・ はじめて会う人と友だちになれたこと
- ・ 雨トレ体験で、家族と話したこと
- ・ スマートフォン、イヤホンをつけながら防災を学んだこと

2：防災キャンプで、まなんぶことはできましたか？

- ・ はい
- ・ いいえ



まなんだことをかいてみましょう！

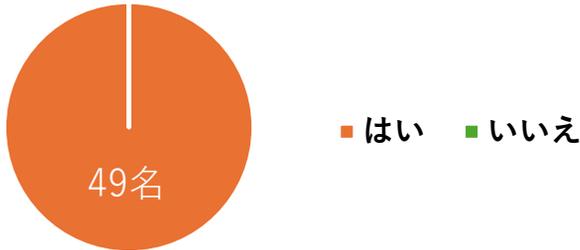
- ・ とともに助け合うことの大切さ
- ・ 災害の怖さ
- ・ 災害時にどのような行動をしたらいいのか学んだ
- ・ 防災の大切
- ・ すぐに避難すること
- ・ 雨トレで災害を知ったこと
- ・ 津波がとても早いこと
- ・ 「きょうじょ」という言葉

「防災キャンプアンケート」 (回答者=49人)

2日間お疲れ様でした！防災キャンプはいかがでしたでしょうか？
この2日間で感じたことをぜひ教えてください！

3：家族や友だちと助け合うことの大切さを感じましたか？

・はい ・いいえ



どのようなときに感じたか、かいてみましょう！

- ・友だちとグループワークをしたとき
- ・津波体験で友だちと手を繋いで走ったとき
- ・津波体験で友だちを目隠しして、一緒に走ったとき
- ・家族で話し合ったとき / ・ヒーローショーを見たとき / ・雨トレ体験のとき

4：これから、防災についてもっと知りたいことはありますか？

・ある ・ない



知りたいことを、かいてみましょう！

- ・自分たちの地域の災害について
- ・南海トラフについて / ・災害時の準備について
- ・事例と対策をもっと知りたい / ・どのくらいの食料が必要なのか
- ・目が見えない人や言葉が通じない人と助け合う方法について
- ・防災ヒーローとして成長したい

5：また、参加したいと思いますか？

・はい ・いいえ

